

# 静岡サレジオ高等学校 体験授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

令和6年12月10日(火)

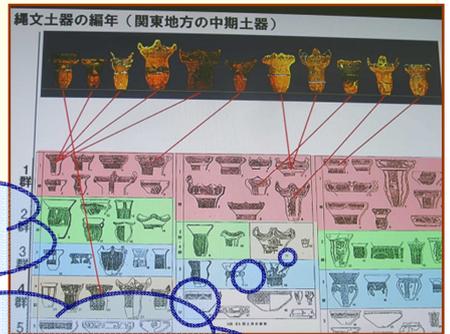


「原始古代の授業で学んだことが展示室の見学や講義とリンクしていて良かったです。」

静岡サレジオ高等学校の3年生28人が、歴史の授業の一環として、考古学の理解を深める目的で、発掘調査と考古学について話を聞き、展示室および資料整理室・保存処理室の見学を行いました。

## 発掘調査と考古学の話

最初に、埋蔵文化財に関わる仕事について説明しました。失われる遺跡を調査し後世に記録を残す仕事や出土した遺物を保存修復し保管公開する仕事であることを確認しました。また、考古学の考え方などを簡単に説明しました。生徒たちは、縄文土器の編年等を見ながら地層と土器の関係を理解し、ワークシートに熱心にメモしていました。



「とても興味深い内容だった。学校では学べない専門的領域に踏み込んだ内容もあり、新鮮な気持ちになった。」

「一番印象に残ったのは土器編年だ。明治のあたりからずっと発掘の記録が残っていて、その特徴をまとめてあると知り、考古学は当時の暮らしを見いだすものであることが分かった。」



## 展示室と資料整理室等の見学

展示室の見学では、石器時代の落とし穴の数や配置、縄文土器の顔、金属探知機で発見した銅鐸、古墳時代の刀の柄頭の漆についてなど、生徒たちは発掘調査時の裏話を大変興味深く熱心に聞いていました。

「木の保存は、顕微鏡を用いてとても細かな操作が必要であることを知り、文化を後世につないでいくことの大変さを感じました。」

「今まで教科書で見てきた道具や落とし穴があり、『本当に存在したんだ』という感動を覚えました。」

「見学を通じて、発掘調査の重要性を実感すると同時に、教科書などからは分からない技術の高さを感じることが出来ました。」

## 先生方の感想

「原始古代の授業で学んだことが展示室の見学や講義とリンクしていて良かったです。特の高校3年生に向けて、考古学の基礎的知識をご教授いただき、私どもの要望に沿っていただきました。ありがとうございました。展示室だけでなく資料整理室や保存処理室の見学もさせていただきました。展示解説もたいへん丁寧で、たいへん勉強になったと思います。貴重な体験をありがとうございました。」

